

アウトリーチ

通信



創刊号
2005年11月30日発行
年4回発行
神戸女学院大学音楽学部
アウトリーチ・センター
〒662-8505
西宮市岡田山 4-1
電話：0798-51-8584

創刊に寄せて

神戸女学院大学学長

原田 園子

本年度特色GPに採択されました
本学音楽学部の「音楽によるアウトリーチ」社会に開かれた学び」は、本学院の建学の精神「愛神愛隣」に基づく他者理解と奉仕を音楽活動を通して実践しようという取組です。自らの演奏能力のみに焦点をおくだけでなく、楽器演奏や声楽・発声そして解説がどのようにすれば聴き手に最も望まれる受け取り方をしていただけるかを学生達が研究・工夫を重ね、キャンパスを飛び出して学校や施設で演

奏活動を行います。この活動は、演奏実技を始めとする音楽の専門教育のみならず、本学の教育理念の核であるリベラルアーツ&サイエンス(Liberal Arts & Sciences)教育によっても支えられています。

学内での学びに加えてアウトリーチによる体験的学びを得ようと励んでおります本学音楽学部生達の活動を見守りつつ、演奏と解説をお楽しみいただけますよう、今後とも温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



神戸女学院大学音楽学部学部長

澤内 崇

本学部の「音楽によるアウトリーチ」は四年前、米国での実践活動を知りその理念に触発され始まった教育及び実践プログラムです。試行錯誤を重ねながら続けてきたこの取り組みが文部科学省によって評価され、本年度の特色GPに採択されました。このことは、これからの活動に経済的のみならず、精神的にも大きな支えとなることと思えます。採択後、本学では常在スタッフを配した「アウトリーチ・センター」を開設し、順調に動き始めています。また、全学的な委員会も立ち上がり、全面的にサポートする体制

2005年10月1日 アウトリーチ・センター開設！

地域の学校や病院、美術館などへ、音楽プログラムを一つ一つていねいに手作りしてお届けするために、5人のスタッフ（早野、寺澤、松川、中村、革島）が週5日（月～金曜、8:50～17:50）サポートします。どうぞご利用下さい！

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1
TEL & FAX：0798-51-8584
E-mail：outreach@mail.kobe-c.ac.jp
<http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

が整いました。あとはさらに上質で充実した活動がより活発に行われるよう努力していきたくと思っています。音楽学部は、二〇〇六年の開設百周年（神戸女学院百三十二周年）に、舞踊専攻（定員七名）を新設します。既にAO、推薦入試で四十名を超える受験生が応募、順調に進んでいます。この「舞踊」と「アウトリーチ」が、音楽学部の今後における可能性の拡大に大きな力を果たすと信じています。

特色GP採択報告

アウトリーチ・センター・ディレクター

音楽学部教授 津上 智実

この度、音楽学部の取組「音楽によるアウトリーチ」が、文部科学省の平成十七年度「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に採択されました。今年度から四年間にわたり、毎年千五百五十万円までの補助金を得て、この取組を充実発展させることとなりました。総額六千万円余りの補助金を有効に生かすことができるよう、襟を正して励む日々です。

「アウトリーチ outreach」とは「より遠くに達すること、通常の活動範囲から踏み出すこと」を意味し、「音楽によるアウトリーチ」は音楽学部の教育を大学内およびコンサート・ホールの舞台という従来の枠組みから解放し、社会の様々な分野に開くことによって、学生の主体的な学びを促そうとするものです。

地域の小中学校や病院で、また子どものためのコンサート等で演奏する際には、聞き手の関心に沿ったプログラム構成が求められます。このような場を学生に与えることで、他者理解を踏まえた自己プロデュース能力、コミ

ュニケーション能力、マネジメント能力を向上させるのが本取組の目的です。それは演奏家の自己プロデュースによる地域密着型のアートマネジメントと行うことができます。専門性の高い地域内インタナシティブとして、学生のキャリア意識醸成の場であり、地域への還元として、建学の精神「愛神愛隣」の実践の場でもあります。

この取組は音楽学部におけるカリキュラム改革に端を発し、音楽学部全卒業生、近隣の小中学校二百二校、在校生のそれぞれに対するアンケート調査を踏まえ、九ヶ月に及ぶ教授会での議論を経て導入されました。二〇〇一年度後期から三回生対象の「音楽によるアウトリーチ（講義）」を、二〇〇二年度から四回生対象の「音楽によるアウトリーチ（実習）」を開講し、今秋で五年目に入ろうとしています。履修生は三年次後期の「音楽によるアウトリーチ（講義）」でアウトリーチの基本的な考え方やプログラム作成のポイントを学んだ上で、四年次の「音楽によるアウトリーチ（実習）」において実際に様々な場に出向いて音楽活動を展開します。実習の場としては、①小中学校へ楽器の体験学習などの音楽プログラムを届ける、②病院や美術館に催しの趣旨や季節にかなった音楽プログラム

を提供する、③学内施設などを利用して「子どものためのコンサート」を開催する、の三つが主な活動です。二〇〇二～二〇〇四年度の実習で、小中学校への派遣二十四回、病院などへの派遣十四回、子どものためのコンサート十一回（シリーズとしては十回）を実施し、地域の皆様にも喜ばれてきました。特に十二月の「子どものためのクリスマス・コンサート」は人気があり、二回公演ですでに来場者が千二百人を越えています。

今後は、個々のアウトリーチの質の向上、病院等へのきめ細やかな対応、卒業生への拡大をめざしていきます。これを支えるために、二〇〇五年十月一日付で音楽学部内（音楽館二十九室）にアウトリーチ・センターを設立しました。月曜から金曜までの週五日、五人のスタッフが交代で勤務してサポートしてまいります。スタッフは全員卒業生で、内三名はアウトリーチ一期生、四名は大学院修了者です。今後、

地域からの演奏依頼を吸い上げて、近隣に音楽活動の場を増やしていくことと皆張り切って仕事をしてくれています。今後の発展に皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今年度の「特色ある大学教育支援プログラム」は全国からの申請

四百十件中、九十一件がヒアリングに進み、四十七件が選定されたとのこと。この厳しい選抜を勝ち抜くことができましたのは、ひとえに学内のワーキング・グループの皆様の惜しみない協力の賜物です。春休み中の申請書の作成から、七月のヒアリング資料（読み原稿と映像資料）の準備、さらに八月の事業計画書および予算書の提出に至るまで、休みを返上し、昼夜を問わずお力添えを頂きました。メンバーの皆様、原田園子学長、上野輝将総合文化学科教授、寺嶋正明人間科学部教授、森永康子同教授、出口弘同助教授、澤内崇音楽学部長、若本明志音楽学科長、中村健音楽学部教授、斎藤言子同教授、田中修二同教授、小寺瑞枝学長室課長、高畑和光音楽学部事務長、樋口徹音楽学部課長補佐に心から御礼申し上げます。

特色ある大学支援プログラム

（特色GP）とは

大学教育の改善に資する種々の取り組みのうち、特色ある優れたものを選定し、選定された事例を広く社会に情報提供することにも、財政支援を行うことにより、国公立大学を通じて、教育改善の取組について各大学及び教員のインセンティブになることにも、他大学の取組の参考になり、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

子どものための
コンサート・シリーズ

第十一回 セタコンサート



楽器の体験コーナー→

↓セタコンサートの舞台

七月二日（土）、本学講堂にて「子どものためのセタコンサート」を開催しました（十一時、十五時の二回公演、来場五百六十八名）。四回生のアウトリーチ履修生七名が出演、織姫と彦星の出会いのオリジナル・ストーリーを織り込んだ音楽劇のような形で展開しました（フルート、彦星・増田みのり／歌、織姫・南香代子／打楽器・田中麻衣子／ピアノ・伊規須彩花、多田亜希子、有澤弥生、河本依津湖）。

演奏曲はホルストの組曲『惑星』の「木星」をメインに、モーツアルトのフルート協奏曲やロサウロのヴィヴラフォン協奏曲、ドナウディの歌曲など。客席後方から出演者が登場したり、お客様にも一緒に手拍子やセタの歌で参加してもらったり、聴衆との一体感をめざしました。体験コーナーではフルートやマリンバ、ウインド・チャイムなどに触れてもらいました。

一人一人セリフがあるなど演奏以外の練習も大変でしたが、初めての演奏会の演奏会を仲間とつくりあげた達成感は大きく、とても意味のあるものでした。（増田みのり・記）



開演前の出演者たち

第十二回 スペシャル・コンサート



↓質問コーナー



↑二台四手の
チャイコフスキー

別所友希）との二台八手（ドヴォルザーク『スラヴ舞曲集』より）など、ヨーロッパ各地の踊りの曲を中心に演奏しました。

プログラム終了後、先生方への質問コーナーや楽器体験コーナーを設け、子どもたちに舞台上のフル・コンサート・ピアノに触れてもらいました。お客様からは「力強い演奏に圧倒され、フル・オーケストラを聴いているようだった」、「本格的なピアノ演奏のコンサートは初めて、素敵な演奏を聴くことができて満足」との声が寄せられました。学生には、先生方との共演が実現できたのがアウトリーチならではの得がたい経験となったようです。（松川峰子・記）

十月二十二日（土）、本学講堂にて「子どものためのスペシャル・コンサート」が奏でるダンスの世界」を開催しました（十四時、来場二百六十二名）。本学教授のロシア人ピアノニスト二人、ボリス・バクテレフ先生とセルゲイ・ミルシュタイン先生をお迎えして独奏（ドビュッシー、ショパン、プロコフィエフの小品）、連弾（ブラームス『ワルツ集』）、二台四手（チャイコフスキー『くるみ割り人形』より）の他に、学生（ピアノ・河戸茉悠、谷村早穂子／ピアノ&通訳・



終了後の反省会で

和歌山大学教育学部附属小学校



マリンバの体験コーナー

五月二十日(金)、和歌山大学教育学部附属小学校(音楽教諭・江田司先生)で六年生一クラスを対象に「マリンバとピアノでラテン音楽を楽しもう」を実施しました(打楽器・田中麻衣子／ピアノ・多田安希子)。

ラテン音楽独特のリズムを感じてもらおうと『スペイン舞曲』『リベル・タンゴ』『ブラジルの水彩画』などスペインや南米諸国の音楽を演奏。国や地域によって異なる楽器や音楽の特徴について、また互いの影響について

話しました。楽器体験では子どもたちにマリンバを叩いてもらいましたが、マリンバのマレットを四本一緒に持つことや、動きの速さに驚いていた様子です。
(多田安希子・記)

尼崎市立上坂部小学校



デュエットで<エーデルワイス>

六月十七日(金)、尼崎市立上坂部小学校(音楽教諭・太田裕子先生)で六年生四クラスを対象に「世界の音楽を聞いてみよう!」を実施しました(ソプラノ・南香代子／ソプラノ・司会・木村明／フルート・増田みのり／ピアノ・河本依津湖)。

六年生が世界の国々について調べ学習をしたのに合わせて、いろいろな国の音楽や言葉による音楽の違いを紹介しながら、『アヴェ・マリア』『オ・ソレ・ミオ』『エーデルワイス』『ジュ・トゥ・ヴ』などを演奏しました。ドラえもんなどの歌の一部をドイツ語とイタリア語と日本語で子どもたちに歌ってもらおうという一コマもありました。

真剣に演奏を聴く子どもたちの姿、楽しそうに一緒に歌ったり体を動かしたり、楽器体験ではクラス全員がフルートに挑戦、何とか音が出るよう励まず先生や友達の様子が印象的でした。
(南香代子・記)



神戸女学院中高校



目覚めた王女の踊り

九月二十七日(火)、本学講堂にて神戸女学院中高校(音楽教諭・喜多牧子先生)の中学一年生四クラスを対象にストラヴィンスキーの音楽劇『兵士の物語』を上演しました。

この作品はパントマイムと劇と音楽が一体となったユニークな作品で、出演者十一人(企画・ピアノ・金沢彩子／ヴァイオリン・東瑛子／クラリネット・上堂尚子、農早織／ホルン・森本美穂／打楽器・田中麻衣子／劇・兵士役・新宅未央／悪魔役・菊池百合子／語り・西岡仁美／踊り、中畑八重、古川蘭子)、本学他学部や他大学、さらには卒業生をも巻き込んだ大掛かりなアウトリーチとなりました。

演奏に先立ってプリントを配布し、この作品のポイントを「芝居小屋のようにはわかりやすい作品をめざした」と「当時流行していたジャズの影響」「言葉（劇）と音楽と動き（踊り）の一体化」の三点に絞って説明しました。生徒たちの反応も良く、終わりに書いてもらった感想文には、物語に対する深い読みや、ライブの踊りと音楽に対する感動が率直に記されていました。

振付（中畑正子）・踊り（上記）・演出（牧野悦子）・衣裳（金沢真梨子）をプロの方にお願ひできたこともあって、再演のお話が戴けるほど良い公演となりました。ご協力頂きました多くの方々に御礼申し上げます。
（金沢彩子・記）

神戸市立博物館

十月十五日（土）、神戸市立博物館 エントランスホールにて「日本最古のスタインウェイが語る元町音楽物語」神戸女学院秘蔵のスクエア・ピアノの展示と演奏」が行われました（十

一時半、十三時半、十五時半の三回公演）。本学所有の日本現存最古（一八六〇年製）のスタインウェイ製スクエア・ピアノが使われ、中村健先生と五名のアウトリーチ履修生（ピアノ・伊規須彩花、金沢彩子、河戸茉悠、多田安希子、谷村早聴子）のお話を交えながら演奏が披露されました。



本学所蔵のスクエア・ピアノ

スクエア・ピアノはテーブル型ピアノとも呼ばれ、十九世紀中頃にアップライト・ピアノが開発されるまで盛んに使われていました。本学の楽器はカナダ人女性が亡くなった娘さんの形見に所有していたもので、宣教師のラドフォード女史に託され、一八九〇年、女学院に寄贈されました。その後、部品が補充できなくなり、長年使われな

いままででしたが、今から十数年前、スタインウェイ社の代理店である松尾楽器商会関西営業所の技術者の目に留まり、数少ない演奏可能な楽器として復元されました。



博物館での演奏風景

当日はお話を交えながらの三回公演で、出演した履修生は大変だったようですが、博物館の美しい空間でこのピアノを演奏できたことを喜んでいました。休憩時間に調律の北村正治氏からピアノにまつわる様々なお話を聞いたのもよかったです。会場には本学関係者も多数来場し、茂洋先生からは楽器に関するお話を頂きました。博物館との交渉に当たって下さった山本美紀先生にお礼申し上げます。
（寺澤彩・記）

西宮市立子育て総合センター

十月十九日（水）、西宮市立子育て総合センター（所長・古岡俊之氏）にて「子育てにやさしい風を吹かせよう」子育てを子どもと音楽とともに「ハープの演奏にのせて」と題した講演と演奏を行いました。第一部は津上智実先生による講演、第二部は既習生・履修生を含む三名（フルート・増田みのり／ハープ・寺澤彩／ピアノ・湯浅香織）による演奏で、秋や子守歌にちなんだ曲、クラシックの名曲などを聴き頂きました。当日は八十名ほどの参加者があり、第三部では会場の皆さんにも歌って頂きました。終了後、アウトリーチ活動に興味を持った方が声をかけて下さって、アウトリーチをより多くの方にとって頂く良い機会となりました。
（寺澤彩・記）



手作りの垂れ幕

講演会シリーズ

第一回 井原三保氏

「ニューヨークランド音楽院の アウトリーチ活動」

十月十四日（金）、この八月末まで文化庁派遣によりポストンのニューヨークランド音楽院で一年間アートマネジメントの研修をして帰国されたばかりの井原三保氏をお招きして、アメリカの音楽大学での取組についてお話を伺いました（音楽館ホール）。



講演会の様子

同音楽院のキャリア・サービス課は、音楽学生に向けて、音楽活動の際に必要な広報資料、プロフィール、履歴書、助成金申請書作成などの指導をしています。またパフォーマンス・アウト

リーチ・オフィスは年間二百回以上の小学校やシニア・センター、病院への訪問演奏のとりまとめと指導を行なっています。学生の活動方法や可能性は多岐にわたっており、いずれも専門スタッフによる丁寧な指導がなされています。様々なプログラム内容、実際にアウトリーチ活動をしている弦楽四重奏団の様子、プレスキット（自己宣伝用資料）の実例など、興味深いお話を聞くことができました。

（寺澤彩・記）



第二回 仲道郁代氏講演会

（十一月十六日）については次号（来年二月発行予定）に掲載します。どうぞお楽しみに！

アメリカ視察報告

「ニューヨークとポストンの

アウトリーチ活動」

津上 智実

二〇〇五年十月三十一日から十一月九日まで、アウトリーチ活動の盛んなアメリカに視察に行ってきました。訪問先はニューヨークとポストンで、①現場でどのようなアウトリーチのプログラムを展開しているのか、②その準備として学生にどのような教育を施しているのか、③大学としてどのような体制で取り組んでいるのか、この三点を知るのが目的でした。

まずニューヨークでジュリアード音楽院とマンハッタン音楽院を訪問。両方の音楽院のアウトリーチ部門ディレクターがお互いに連絡を取り合っていて、隙のない視察スケジュールを組んでくれたのは本当にありがたいことでした。親切な二人に感謝！
貧しいハーレム地区の小学校で、マンハッタン音楽院の院生五人が木管五重奏のプログラムを実施するのを見学。行儀の悪い子どもたちをぐいぐ

いと惹きつけていくプログラム展開のうまさを感じました。マンハッタン音楽院ではオーケストラの学生は一学期間、ジャズの学生は一年間、アウトリーチが必修科目となっているそうです。

次にチェルシー地区の小学校でジュリアード音楽院の学生三人による授業四つを見学。ここは子どもたちも落ち着いていて、学年に応じて教え方を上手に変えていました。日本の小学校と違ってピアノがないので、キーボードを持参して演奏。アメリカは公教育における音楽の位置づけが州によって千差万別で、ニューヨーク州では十年ほど前に外されてしまったので、これはとても重要な活動です。

またジュリアード音楽院ではアウトリーチの基礎教育の授業の一つ「学びへの洞察 Insights Into Learning」を見学。表現すること、伝えることを身体レヴェルまで掘り下げて考えさせるすぐれた授業で、見ている内にうれしさが込み上げてきました。担当は作曲のビラウス先生で、近い将来、女学院にお招きして集中講義をして頂けたらと考えています。

ジュリアード音楽院には現在七つのアウトリーチ・プロジェクトがあり、それぞれ定められた課題をすべてクリアした学生には年額八百ドル(約九万円)から五千ドル(約六十万円)までの報奨金が支給されます。アウトリーチは単位ではなく奨学金で報われる形で、キャリアにもなるので、優秀な学生たちが競って応募してくること。ジュリアード音楽院におけるアウトリーチ部門の年間予算は八十五万ドル(約九千五百万円)。常勤スタッフ四人が各一室を構える大きなオフィスです。

ボストンではアウトリーチの先進校として名高いニューイングランド音楽院を訪問。授業三つとワークショップ一つを見学しました。ワークショップはアウトリーチ部門で年間十回行われる内の一つで、今回はクロッグズというカナダの即興演奏グループ(ヴァイオリン、ギター、バスーン、パーカッション)を招いて、どのようにしたら聴衆を巻き込むことができるかをテーマに、実演(近隣のYMCAの子どもたちの参加を得て)とディスカッションで進められました。プロ

の演奏グループと聴衆の子どもたちの両方を大学に招いて行うのは初めてだそうで、労作のよい企画でしたが、残念なことに参加学生は少数で、いずこも同じ秋の夕暮れ・・・と感じたことでした。



クロッグズのワークショップ

このニューイングランド音楽院は「地域社会との連携プログラム The Community Performances and Partnerships Program」によって年間二百回以上のアウトリーチ活動を展開しており、制度的にもよく整備されて学ぶところの多い学校でしたが、現場での活動については、今はまだ準備期間(十二月から本格化し、春に集中しているとのこと)で見る機会を持ってなかったのが残念でした。

一方、ボストン交響楽団のユース・ファミリー・コンサート(秋と春に実施)を見学できたのはラッキーでした。お話の内容も曲の提示の仕方も大変よく考えられたプログラムで感激しました。担当者のエデュケーション・コミュニケーション・プログラム・ディレクターに面談を求めたところ、ジュリアードのディレクターから話を聞いていましたよと温かく迎えられ、すつと話に入ることができました。このディレクターはボストン交響楽団です。に十六年の実績があり、さらにこの

九月からボストンのロンジー音楽院で大学院生対象のアウトリーチ活動の教育プログラムを新規開講した担当者でもあり、明晰で魅力的な人です。ボストン交響楽団の次回の来日公演の際には、ぜひ一緒に日本まで来てもらって、女学院でも講義をして頂きたいと思っ



ボストン郊外の老人ホームで

リーチ担当者に会ったり、ボストン郊外の立派な老人ホーム(暖炉には薪が燃え、ディナーは正装でのフル・コース、広大なお庭と森を控えたホテル顔負けの豪華な施設にびっくり!)でのアウトリーチ・コンサートを見学したり、多くの方々のお力添えで充実した視察旅行となりました。さらにアメリカのみならず、ヨーロッパについても、アウトリーチが盛んな国や大学諸機関はどこかといった情報を得ることができ、予想以上の成果を上げることができました。今回の視察で学んださまざまな工夫やノウハウを、今後の女学院でのアウトリーチ活動により形で活かしていきたいと思っています。どうぞご期待下さい!



ニューイングランド音楽院のスタッフと(左から:津上、アンジエラ、ターニャ、早野)



横浜でのポスター発表

十月十七日、文部科学省の特色GPPフォーラム横浜会場（パシフィコ横浜）でポスター発表を行ってきました。当日は津上先生、樋口さん、早野の三人が参加しました。今年度の特色GPPに採択された大学・短期大学四十七校が参加し、各大学の取組について資料を手に入れたり、担当者と話せるようになっていました。本校のブースにも多くの方がお越し下さり、私達も他大から参考になる情報を得ることができて、他大と交流するとてもよい機会となりました。次回は十一月二十三日、京都の国立京都国際会館です。
（早野紗矢香・記）

♪ 音楽をお届けします ♪

「音楽によるアウトリーチ」

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。大学やホールといった従来の枠にとられずに、社会のさまざまな場にてきな音楽のプログラムをお届けします。

- ♪ 小中学校へ：総合的学習支援プログラムとして、子どものための楽しい体験学習を！
- ♪ 病院や美術館へ：催しの趣旨に沿った手作りの音楽プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL&FAX: 0798-51-8584
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp http://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/

♪ 今後の予定 ♪

アウトリーチ・ワークショップ第1回

「舞台照明の基本と可能性」

12月2日（金）11:30～14:00 於：講堂 講師：宮川博喜氏（兵庫県立芸術文化センター照明専門員）

子どものためのコンサート・シリーズ第13回

「子どものためのクリスマス・コンサート」

12月10日（土）13:30、16:30 於：講堂

出演：松川峰子、服部愛、山田愛子、寺澤彩、西脇恭子、早野紗矢香（アウトリーチ既習生 他）

アウトリーチ・ワークショップ第2回

「スクエア・ピアノの構造と音楽」

12月16日（金）9:00～10:30 於：図書館本館 講師：北村正治氏（松尾楽器商会ピアノ技術部調律師）

アウトリーチ講演会シリーズ・第3回

「リトミックの理論と実践」

2006年1月17日（火）14:55～16:25 於：音楽館ホール

講師：田村朋子氏（ダルクローズ・サーティフィケート取得、神戸女学院大学英文科非常勤講師）

♪ 編集後記 ♪

たさんの可能性を秘めている「アウトリーチ」。今後が楽しみです！（早野）

祝アウトリーチ通信創刊！スタッフの一人として日々奮闘中です☆皆様に愛される通信となりますように♪（寺澤）
この通信を通じて、私たちの活動を知って頂きたいと思います。微力ながらスタッフの一員として頑張ります！（松川）

編集作業はやりがいたっぷりで楽しかったです。これからのアウトリーチに乞うご期待♪（中村）

音楽が広がっていくお手伝いを少しでも出来ればと思っています。音楽、いいですよ！楽しみましょう！（革島）
何もかもが初めてですべてを一から決めなければならない創刊号。でも優秀なスタッフに恵まれて幸せ！（津上）